

第95回兵庫県メーデー神戸中央大会式典にご参加の皆さん、おはようございます。メーデー実行委員会・実行委員長の福永と申します。

メーデー実行委員会は、連合兵庫、連合神戸、兵庫労福協、神戸労福協、建設連合で構成しています。代表して、ご挨拶を申し上げます。

本年も、戦前の労働運動発祥の地ここ「大倉山」で、メーデー式典を開催することができましたこと、皆さんとともに喜び合いたいと思います。

そして、本日は公私ともに大変お忙しいなか、ご来賓として、片山兵庫県副知事、久元神戸市長、井坂立憲民主党県連代表、川内国民民主党県連代表、梶川社民党県連代表、清宮近畿労金兵庫地区本部本部長、住山こくみん共済COOP兵庫推進本部本部長、坂本部落解放同盟兵庫県連委員長、松浦兵庫退職者連合会長をはじめ、多くの皆様にご臨席を賜りました。

心より御礼申し上げます。

さて、私からは、簡潔に4点の所見を申し上げ挨拶といたします。

今年のメーデースローガンは、「連帯の力で平和と人権を守り、誰もが安心して暮らせる新たなステージへ！」「被災地の復旧・復興に向けて、みんなで支え合い、助け合おう」です。

1点目に、その「被災地の復旧・復興」と「連帯・助け合い・絆」の大切さについて、思いを述べておきたいと思います。

本年1月1日、「能登半島地震」に見舞われ、石川県を中心に甚大な被害がもたらされました。あらためて、亡くなられた皆さんに哀悼の誠を捧げますとともに、被災された皆さんに心よりお見舞い申し上げます。

4月16日段階での被災状況は、死者245人、負傷者1,547人、全壊8,536棟、半壊19,015棟、避難生活を余儀なくされている人5,449人という状況です。連合も、発災当初からカンパ・義援金の取り組みを展開してきました。また、3月24日からようやく「現地入り」ができるようになり、被災地救援ボランティアを、現在は、珠洲市を中心に派遣しています。

29年前の阪神淡路大震災でも、13年前の東日本大震災でも、8年前の熊本地震などでも、全国の多くの皆さんが、甚大な被害を被った被災地の一日も早い復旧・復興に思いを馳せ、「連帯・助け合い・絆」を胸に、それぞれが「できること」に取り組んできました。

能登半島地震の被災地の復旧・復興に向け、私たち「一人ひとりがやれること」に精一杯取り組むことを、みんなで確認しあいたいと思います。

本会場で行っているカンパ活動も、私たちのやれることの一つです。ご協力をお願いします。

このように被災地の復旧・復興にむけては、多くの人達による「強い連帯・助け合い」が実践されている一方、いまの日本の社会では、雇用の劣化や格差・貧困の拡大が進み、社会の分断・自己責任論強調などの風潮にみられるように、人間関係・協力関係が希薄になり、連帯・助け合いを見失いがちになっているという「現実」もあります。

こうした社会の現実に鑑みれば、「労働の尊厳が尊重される社会をめざす連合運動」と「連帯・友愛・絆といった人間どうしの関係性再構築をめざす労福協運動」の役割発揮によって、貧困も社会的排除もなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらせる持続可能な社会を実現することが重要だと痛感いたします。

「連帯・助け合いが当たり前の社会」を取り戻すために、皆さんの積極的な労働運動、労福協運動への参画をお願い致します。また運動の輪を広げるべく組織拡大、集団的労使関係拡大に一層取り組んで参りましょう。

2点目は、2024春闘についてです。

4月18日公表の連合の第4回回答集計結果では、平均賃金方式の組合の平均賃上げ額が15,787円、賃上げ率は5.2%と、高い賃上げ額・率を維持しています。また、このうち300人未満の中小組合の集計では12,170円・4.75%と、集計を重ねるごとに上昇しています。

このことは、各労組の真摯な交渉によって、労使双方が企業の持続的成長にむけ「人への投資が欠かせない」との認識を深めた結果であり、連合がこれまで言い続けてきた「人への投資を起点とする経済の好循環」のサ

イクル実現を期待できる可能性が出てきたものと、前向きに評価しあいたいと思います。

余談ですが、今次春闘で、大手組合を中心に「要求額を超える賃上げ回答」が多くみられた点について、率直に良かったという思いがある一方で少し気がかりな点もあります。例えば、

- 賃上げ部分に要求を超える財源が投入された意味合いは、組合要求の根拠よりも、採用力向上にむけた会社都合のみが優先されたということなのだろうか、賃上げ以外の要求への財源の振り向けはどうだったのかという点
- 要求満額を超えた分の財源は、グループ企業や関係企業との取り引きの適正化に振り向け、中小企業の労働条件向上に配慮すべきではないのかという点、などです。

今後、これらの課題の整理も必要だと思います。

今次春闘は、まだ多くの労働組合が交渉中です。賃上げのさらなる広がり、格差是正に向け、構成組織・連合兵庫が一体となって闘争を進めて参ります。皆さんの引き続きのご支援をお願いいたします。

3点目は、政治について触れておきたいと思います。

裏金事件をめぐる自民党内の処分が示されましたが、裏金づくりに至った経緯やその用途は依然わからず、国民が求めている実態解明は置き去りになったままです。政治改革特別委員会で、政治資金規正法の改正議論がなされるにしても、実態解明がなされないままで、裏金を許した法の不備を無くし、再発防止ができるのでしょうか。議論を注視しましょう。

また、明日投開票の3補選も「政治とカネの問題」が絡んでの選挙です。各党の政治資金改革への姿勢にどう審判が下るのかも注目しましょう。

一方、私たち労働者・生活者の立場での政策を共有しその実現をめざす政党は、立憲民主党と国民民主党です。第50回衆議院選挙の実施時期は不透明ですが、労働者・生活者の代弁者として、連合兵庫が推薦・支持する候補予定者全員を、構成組織における立憲民主党・国民民主党という支援政党の垣根を越えて一枚岩で支援することを、皆さんと確認しあいた

いと思います。

4点目は、ジェンダー平等社会の実現にむけてです。

2023年のジェンダーギャップ指数ランキングで、世界146か国のうち日本は過去最低の125位へと後退しました。その原因は、評価要素の「教育」「健康」「政治」「経済」の4分野のジェンダー格差のうち、「教育」「健康」は世界トップクラスであるのに対し、「政治」と「経済」分野の値の低さです。

なかでも経済分野の評価基準は、男女の、労働参加率・管理職割合・賃金格差などであり、労働組合のチェック機能発揮も求められる分野です。

また、その労働組合自体も、意思決定の場は女性にとって過小代表での運営状況にあり、課題の扱い方や民主的な運営という点からして、さらなるジェンダーバランスの追求が不可欠です。

メーデー実行委員会を組織する連合も、労福協も、あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画を促し、その影響評価を行いながら政策等に反映していく、いわゆる「ジェンダー主流化」を進めて参りましょう。

結びと致します。

すべての働く者・生活者が希望と安心を取り戻し、「働くことを軸とする安心社会」を実現するために、私たち働く者自身が、「団結・連帯の力」、そして「未来を切り拓くのは私たちだという自覚」をさらに高め、様々な困難に、心を一つに、立ち向かっていくことを、本メーデーにおいて、改めて確認し合い、挨拶と致します。

第95回メーデー万歳！ 共に頑張って参りましょう！

以上